



1929-2016
NH HARNONCOURT
ETERNAL COLLECTION

アーノンクール

エターナル・コレクション

(1枚組) ¥1,400(本体)+税 (2枚組) ¥2,300(本体)+税 (3枚組) ¥3,100(本体)+税 (4枚組) ¥3,800(本体)+税

ひとつの歴史を築いた巨匠指揮者ニコラウス・アーノンクール。
彼の素晴らしい遺産を代表する、彼の転機となった多くの名演奏、
現在入手しにくいアイテムを厳選し、日本独自企画にて再発売。
日本語解説・歌詞対訳付。オリジナル・ジャケット・デザイン使用。



ワーナーミュージック・ジャパン
オフィシャル・ホームページ / クラシック

<http://wmg.jp/cla/>



WARNER
MUSIC
JAPAN



1929-2016 NH

- 1929 12月6日、ベルリンにて生まれる。
- 1931 オーストリア、グラーツに移り住む。
- 1948 ウィーン国立音楽院に入学。
- 1952 ウィーン交響楽団にチェロ奏者として入団。
- 1953 アリスと結婚。

ウィーン交響楽団の同僚たちと、CMWの原型となるアンサンブルを結成。
- 1954 ヒンデミット指揮の「モンテヴェルディ：オルフェオ」公演に、古楽器奏者として参加。
- 1957 CMWとして正式活動開始。
アマデオ・レーベルに録音開始。
- 1963 テレフンケン（現ワーナー）に録音開始。
- 1964 古楽器による初の「バッハ：ブランデンブルク協奏曲」を録音。
- 1965 バッハ時代の編成・楽器による「バッハ：ヨハネ受難曲」を初録音。
テレマンの作品を、古楽器にて初録音。



1 マンハイム宮廷の音楽

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

アーノンクール&CMWのテレフンケンへの初録音盤。マンハイム宮廷を賑わせた前古典派の作曲家の作品を、古楽器を用いて生き生きと演奏した画期的なアルバム。



録音：1963年5月
WPCS-13589

3 J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲 全曲（1964年録音）

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

世界初の古楽器によるセンセーショナルな演奏であり、記念碑的録音。アーノンクールによるバロック語法が、音楽としての強固な枠組みを明確にし、色彩感や気品ある表現を満喫させてくれる名盤。

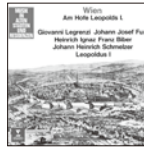


録音：1964年
WPCS-13592/3

2 ウィーン、レオポルト1世の宮廷にて

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

アーノンクールが独エレクトローラに録音した唯一のもの。レオポルト1世時代のフランスとイタリアの影響をうけたウィーン音楽の魅力を、若きアーノンクールが見事に引き出した興味深いアルバム。



録音：1963年6月16日-21日
WPCS-13528

4 J.S.バッハ：ヨハネ受難曲（1965年録音）

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
ハンス・クリスベルガー（総指揮）
K,エクウィルトツ（福音史家）M,エグモント（イエス）他

ピリオド楽器と男声のみによる世界初録音だった歴史的名盤。アーノンクールが、種々の考証と実験によって「バッハの理想」を響きとして具体化した伝説的演奏。



録音：1965年
4月6日-23日、7月3日-5日
WPCS-13507/8

5 マリア・テレジア王朝のウィーン音楽

世界初CD化

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

バロックから全古典派に属するオーストリアの作曲家たちの秘曲が収録されたアルバム。アーノンクールらは単に古い珍品を再現するだけでなく、これらの音楽の美しさを自分たち自身が十分に感じて演奏している。



録音：1975年?, 1965年
WPCS-13627

6 テレマン：複数楽器のための協奏曲集

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
フランシス・ブリューン（リコーダー）他

テレマンの様々な楽器の協奏曲を室内楽風かつ対話的に演奏した、録音当時としては珍しかったもの。その音楽は極めて優雅で、初めてテレマン本来の音楽が蘇った録音。



録音：1965年
WPCS-13610

7 J.S.バッハ：管弦楽組曲 全曲（1966年録音）

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

世界初の古楽器によるセンセーショナルな演奏であり、記念碑的録音。アーノンクールによるバロック語法が、音楽としての強固な枠組みを明確にし、色彩感や気品ある表現を満喫させてくれる名盤。



録音：1966年
WPCS-13594/5

8 テレマン：「最後の審判の日」「イノ」

ニコラウス・アーノンクール（指揮）
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
ハインリッヒ・モンテヴェルディ合唱団、ユルゲン・ユルゲン（合唱指揮）他

生前にはライブツィヒの新聞での人気投票で1位だったテレマン。晩年の大作「最後の審判の日」は、物語の劇的表現をアーノンクールが楽譜からえくり出した名演。

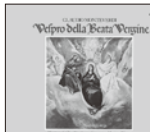


録音：1966年、1988年
WPCS-13613/4

9 **モンテヴェルディ:聖母マリアのタベの祈り (1967年録音)**

ニコラウス・アーノンクール (指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
 ユルゲン・ユルゲンス (総指揮)
 ハンブルク・モンテヴェルディ合唱団 他

この作品が研究・復興され始めたばかりの頃の録音。当時の音楽研究の大御所ユルゲン・ユルゲンスとの共同による演奏だが、アーノンクールは楽器の選定、演奏法を研究し、この作品に



新解釈を与えた重要な演奏。器楽の解説もアーノンクール自身が執筆している。

2CD

録音:1966年、1967年
 WPCS-13586/7

10 **バッハの息子たちの複協奏曲集**

ニコラウス・アーノンクール (指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
 グスタフ・レオンハルト (指揮)
 レオンハルト・コンサート

レオンハルトとアーノンクールらによる数少ない合同演奏。ロココスタイルの前古典派への音楽を、当時の楽器と演奏法で録音した画期的なアルバム。



録音:1966年、1968年
 WPCS-13587

11 **J.S.バッハ:ミサ曲口短調 (1968年録音)**

ニコラウス・アーノンクール (指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
 R.ハンスマン(S) H.ワッツ(A) K.エックウィルト(T) 他

ピリオド楽器による世界初録音だった歴史的名盤。アーノンクールが、種々の考証と実験によって「バッハの理想」を響きとして具体化させた伝説的演奏。



2CD

録音:1968年4月、5月
 WPCS-13609/10

12 **J.S.バッハ: ヴィオラ・ダ・ガンパ・ソナタ集 他**

ニコラウス・アーノンクール(ヴィオラ・ダ・ガンパ)
 ヘルベルト・タヘツィ(チェンバロ) 他

持続音のガンパの音色と一音一音すぐ音量が減衰するチェンバロとの対比の妙。アーノンクールとタヘツィの掛け合いは、当時のバロック語法を見事に再現した名演。



録音:1968年3月、4月
 WPCS-13515

13 **J.S.バッハ: カンタータ第197番&第205番**

ニコラウス・アーノンクール (指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
 Y.ケニー(S) M.リボツェク(A) K.エックウィルト(T) R.ホル(B) 他

バッハ唯一のオペラの劇音楽のダイナミックなサウンドによる「鎮まりしアイオロス」。カンタータ第197番は、カンタータ全集が開始される前の1968年の録音音源。



録音:1968年、1982年
 WPCS-13513

14 **J.S.バッハ: マタイ受難曲 (1970年録音)**

ニコラウス・アーノンクール(総指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
 K.エックウィルト(福音史家) K.リッター・ブッシュ(イエス) 他

ピリオド楽器と男声のみによる世界初録音だった歴史的名盤。アーノンクールが、種々の考証と実験によって「バッハの理想」を響きとして具体化させた伝説的演奏。



3CD

録音:1970年
 WPCS-13504/6

15 **ハプスブルク宮廷の音楽**

ニコラウス・アーノンクール (指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

ハプスブルクの宮廷で活躍したシュメルツァーとフックスの合奏作品を取り上げたもの。ウィーンの宮廷に響いた楽師たちの音楽を、古楽器を用いて再現した、アーノンクール初期の注目盤。



2CD

録音:1969年、1970年
 WPCS-13590/1

16 **「戦闘」～ビーバー:作品集**

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
 ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

当時、ほとんど演奏されなかったビーバーの作品に光を当てた意義深い録音。アーノンクール&CMWによる演奏の特質が、最も端的かつ効果的に発揮された記録。



録音:1971年
 WPCS-13588



- 1966 古楽器による初の「バッハ: 管弦楽組曲」を録音。 7
- 管弦楽組曲」を録音。 8
- ユルゲン・ユルゲンスらと、「モンテヴェルディ:聖母マリアのタベの祈り」を古楽器で初録音。 10
- 1967 ユルゲン・ユルゲンスらと、「モンテヴェルディ:聖母マリアのタベの祈り」を古楽器で初録音。 9
- 1968 バッハ作品の録音を開始。 11
- 1969 ウィーン交響楽団を退団。 12
- 1970 バッハ時代の編成・楽器による「バッハ:マタイ受難曲」を初録音。 13
- 1971 テレフンケンと専属契約を結ぶ。 14
- レオンハルトとの「バッハ:カンタータ全集」録音開始。 15
- 1973 ザルツブルク・モーツァルテウム大学教授に就任。 16
- 1975 チューリヒ歌劇場にて、ボネル演出の「モンテヴェルディ:オルフェオ」を上演。 17
- 「バッハ:マタイ受難曲」を、アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団で指揮。 18
- 20
- 21





1929-2016 NH

1978 CMWの定期演奏会を、ウィーン楽友協会にて開始。 [22]

ヘンデルのオラトリオ作品を録音。 [23]

1979 アムステルダム・コンサートヘボウ管弦楽団で、モーツァルト作品を初めて指揮。 [25]

1980 CMWと初来日。 [26]

1983 アムステルダム・コンサートヘボウ管弦楽団の客演指揮者として、その後積極的に演奏開始。

ウィーン・フィルを初めて指揮し、クレメールとの「モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲」を録音。

ウィーン交響楽団で、モーツァルトの交響曲を指揮。

モーツァルト作品を、モダン楽器オーケストラを指揮し録音。 [27]

1984 ウィーン・フィルの定期演奏会で初めて指揮。 [28]



17 J.S.バッハ： クリスマス・オラトリオ

ニコラウス・アーンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
P.エスツク(C-T) K.エイクウィルツ(T) S.ニムスゲルン(B) 他

ピリオド楽器と男声のみによる世界初録音だったもの。祝祭的なバロック・サウンドと少年合唱の新鮮な響きによって、この曲の本質が再現された歴史的名盤。



2CD

録音:1972年-1973年
WPCS-13511/2

19 J.S.バッハ：ヴァイオリン・ソナタ集 復元協奏曲 BWV1052R&1055R 他

アリス・アーンクール(ヴァイオリン)
ヘルベルト・タヘツィ(チェンバロ)
ニコラウス・アーンクール(ヴィオラ・ダ・ガンバ&指揮) 他

アーンクール夫妻による、通奏低音にガンバを追加し、バッハの理想を目指した名演。当時の最高級名器「ヤコフ・シュタイナー」を使用。復元協奏曲他3曲を追加収録。



2CD

録音:1975年、1976年
WPCS-13516/7

21 ゼレンカ： 作品集～ヒポコンドリア

ニコラウス・アーンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

「ボヘミアのバッハ」と評価される盛期バロックの作曲家ゼレンカ。ここに収録された作品はどれも名人芸を必要とするもので、アーンクールが当時最先端の古楽器演奏で再現した録音。



録音:1977年～1978年
WPCS-13628

23 ヘンデル： オラトリオ「アレクサンダーの饗宴」

ニコラウス・アーンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
アルトゥールム・バッハ合唱団 他

ヘンデルの、音楽の多彩な魅力と構成によって自然な高揚感を演出した作品。アーンクールは、合唱とオーケストラ、ソリストたちが織りなす立体感豊かなサウンドを作りだし、上質な肌合いで捉えられた意欲作。



2CD

録音:1977年、1978年
WPCS-13615/6

18 オランダ・フェスティヴァル・ ライヴ1973

ニコラウス・アーンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

テレフンケンと専属契約し、ヨーロッパツアーの一環のオランダ音楽祭に出演した時のライヴ録音。小編成での演奏ながら、様々な描写を大胆に表現した斬新な演奏。



ライヴ録音:1973年6月22日
WPCS-13527

20 J.S.バッハ：フルート・ソナタ集

レオホルト・シュタストニー(フルート・トラヴェルソ)
ニコラウス・アーンクール(チェロ)
ヘルベルト・タヘツィ(チェンバロ) 他

バロック音楽の解釈に努めたフルート奏者の一人シュタストニー。アーンクールらとともに、作品の読みとその解釈に満ちて取り組んだアルバム。バッハの多様な音楽の魅力とありのままの演奏を率直に伝えた名演奏。



録音:1976年
WPCS-13596

22 テレマン： ダルムシュタット管弦楽組曲集

ニコラウス・アーンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

ダルムシュタットに所蔵されたテレマンの作品100曲から選抜された6曲を収録。そのどれもがユーモアとセンスに溢れており、アーンクールがそれらを見事に再現した演奏。



2CD

録音:1978年12月、
1966年3、4&10月
WPCS-13611/2

24 ヘンデル： オラトリオ「イェフタ」

ニコラウス・アーンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
モーツァルト少年合唱団、アルノルト・シェンベルク合唱団 他

ヘンデル最晩年の傑作オラトリオ、その成立は彼自身の失明と宿命的な関わりをもっていられるとされている。アーンクールはその苦悩を感じ取るように、作品に情熱を注ぎ込んだ名演。



3CD

録音:1978年～1979年
WPCS-13617/9

25 J.S.バッハ:モテット集

ニコラウス・アーノンクール(総指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
ストックホルム・バッハ合唱団

バッハ・カンタータ全集録音から更に奥深い音楽美の追求を成人合唱に求めた「モテット集」。どの演奏よりも集中度が高く濃厚な演奏が印象的な名盤。



録音:1979年11月、12月
WPCS-13514

26 ハンデル:
合奏協奏曲作品3&6(全曲)

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

当時の楽器配置を研究し、作品に鮮度を与えた演奏として名高いもの。作品の表情の喜怒哀楽をつぶさに描出するような表現、影りの深さやテクスチャーの明瞭な立ち上がりなど、活気に満ちた表現は現在においても新鮮!



録音:1980年頃(作品3)、
1982年(作品6)
WPCS-13598/601

4CD



1985 グラーツ・シュテリアルテ音楽祭 29
を開始。

1986 「モンテヴェルディ:聖母マリアの
タバの祈り」を、アーノンクール独自

31

32

33

1987 モーツァルトのオペラ作品を
録音開始。

34

ヨーロッパ室内管弦楽団を指揮し、
ベートーヴェンを演奏。

1988 チェロでの弾き振りをやめ、
指揮者に専念。

1991 ベルリン・フィルを初めて指揮する。 35

1992 ザルツブルク音楽祭に公式デビュー。 36

37

1993 「バッハ:ヨハネ受難曲」を再録音。 38

1994 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦
楽団で、ブルックナーを指揮。

27 モーツァルト:
2台のピアノのための協奏曲 他

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団
フリードリヒ・グルダ、チック・コリア(ピアノ)

フリードリヒ・グルダ、チック・コリアと、アーノンクールの音楽の「対話」による「美」が表現されたモーツァルトの協奏曲の決定盤。



録音:1983年6月
WPCS-13602

28 モーツァルト:
ミサ曲ハ短調K.427

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
K.ラーキ(S) Z.チーネシュ(S) K.エグヴィルツ(T) R.ホル(B) 他

強烈な演奏で驚かされたあの名盤「モーツァルト:レクイエム」に続く録音だったもの。彼が信頼するバイヤー版を基本使用し、幸福感と緊張感の対話によった名演。



録音:1984年10月
WPCS-13523

29 モーツァルト:ハフナー・セレナード
セレナータ・ノットゥルナ

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
シュターツカペレドレスデン

伝統的な音をもつシュターツカペレドレスデンとモーツァルトの音楽語法の融合によって生まれた「ハフナー・セレナード」。手兵CMWで演奏した、ユーモアあふれる「セレナータ・ノットゥルナ」も収録。



録音:1985年、1987年
WPCS-13522

30 J.S.バッハ:ミサ曲口短調
(1986年録音)

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
A.M.ブラーシ、D.ツィーグラ(S) J.ラッペ(A) 他

アーノンクール2回目の「ミサ曲口短調」の録音。高音声部に女声を起用し、アーノンクールのバロック語法の要求に応え、深い音楽を導き出した名演。興味深いアーノンクールへのロングインタビューの日本語訳付。



録音:1986年4月
WPCS-13520/1

2CD

31 モンテヴェルディ:聖母マリアのタバの祈り
(1986年録音)

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
アルムルト・シェーンベルク合唱団 他

この曲を「オペラの延長」と解釈するアーノンクール。オペラにも精通する歌手たちが起用され、劇的なバロック語法表現による感動的な演奏。



録音:1986年7月
WPCS-13604/5

2CD

32 テレマン:
ターフェルムジーク(全曲)

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

数ある「ターフェルムジーク」の録音の中でも、多彩さと表現で群を抜いた名演。アーノンクールの四半世紀に及ぶバロック音楽の研究と、音楽に生気を吹き込む彼ならではの魔術が一体となった魅力満載の録音。



録音:1986年、1988年
WPCS-13606/9

4CD





1929-2016
NH

2000 「バッハ：マタイ受難曲」を再録音。

ウィーン・フィル、ニューイヤー・
コンサートを指揮。

39
テルデックからBMG(現ソニー)に移籍。

2003 再び、ウィーン・フィル、ニューイヤー・
コンサートを指揮。

2005 京都賞を受賞。授賞式のために来日。

2006 ウィーン・フィル、CMWを率いて来日。

2010 CMWを率いて来日。

2015 12月5日、身体の力が及ばない
として指揮活動から引退。

2016 3月5日、オーストリアのザンクト・
ゲオルゲン・イム・アッターガウの
自宅で死去。



33 **サリエリ：まずは音楽、おつぎが言葉**
モーツァルト：劇場支配人

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団

1786年、ヨーゼフ2世はサリエリとモーツァルトにオペラを作曲させ、ジグシュビール歌劇団で上演するように命じた。その二つの作品の音楽的特徴、魅力をアーノンクールが伝えた好企画盤。



録音：1986年
WPCS-13622

34 **モーツァルト：セレナード**
ディヴェルティメント
ファゴット協奏曲 他

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

ひと味もふた味も異彩を放ったアーノンクールのモーツァルト。彼がCMWと録音した「セレナード」「ディヴェルティメント」を取録。アーノンクールの意図を汲みつけて現実の音にしているCMWの練達のアンサンブルを堪能ください。



録音：1987～1993年
WPCS-13623/6

4CD

35 **メンデルスゾーン：**
交響曲第3番「スコットランド」
交響曲第4番「イタリア」

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ヨーロッパ室内管弦楽団

初期ロマン派特有の淡彩の美しさを、アーノンクール独自の語法で見事に描き出したメンデルスゾーン。



録音：1991年10月
WPCS-13603

36 **メンデルスゾーン：夏の夜の夢**
最初のワルブルギスの夜

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ヨーロッパ室内管弦楽団
アルノルト・シェンベルク合唱団 他

「愛らしい妖精が舞い、魔法の園が目の前に出現する…音楽における雄弁術は重要だ」と語るアーノンクール。初期ロマン派特有の淡彩の美しさを彼特有の語法で描き上げたメンデルスゾーン。



ライブ録音：1992年7月
14日&15日、18日-20日
WPCS-13524

37 **ヘンデル：**
オラトリオ「サムソン」

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
アルノルト・シェンベルク合唱団 他

旧約聖書「士師記」に登場する、闘士サムソンの最期を扱った傑作。ヘンデルが教会作品で培った合唱様式と、オペラで培った独唱様式を見事に一体化したものだ。アーノンクールが荘厳かつ格調高く演奏した名盤。



録音：1992年
WPCS-13620/1

2CD

38 **J.S.バッハ：ヨハネ受難曲**
(1993年録音)

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
A.R.ジョンソン(福音史家) R.ホル(イェス) 他

アーノンクール2回目の「ヨハネ受難曲」の録音。古楽演奏の成果と演奏経験の積み重ねを反映させ、高音声部に女声を用いた。全曲の進行と前後関係の自然な流れによる豊穡なる名演。



録音：1993年10月&11月
WPCS-13518/9

2CD

39 **フランツ・シュミット：**
オラトリオ《7つの封印の書》

ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
K.シュトライト(T) D.レシュマン(S) M.リホウシェク(A) 他

20世紀最高の黙示録を題材とした再評価の高い大作。20世紀音楽に関心を持っていたアーノンクールの長年の「軌跡」と、充実を極める「今」が、最良の果実となって結実した意義深い録音。



ライブ録音：2000年4月
WPCS-13525/6

2CD

40 **アーノンクール・**
エターナル・コレクション

- **バッハ・ベスト** WPCS-13529
ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
- **バロック・ベスト** WPCS-13530
ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス
- **古典～ロマン派ベスト** WPCS-13531
ニコラウス・アーノンクール(指揮)
ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団
ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、ヨーロッパ室内管弦楽団 他
各 ¥1,000(本体)+税



アーノンクール指揮による名盤、発売中タイトル

モンテヴェルディ：歌劇「オルフェオ」「ウリッセの帰還」「ボッペアの戴冠」他～CMW	[2564-631482：輸入盤] (9CD)
ヴィヴァルディ：「四季」他～CMW	[WPCS-21043] (1CD)
ヴィヴァルディ：「グローリア」、ヘルゴレージ：「スターバト・マーテル」～CMW	[9029-593159：輸入盤] (1CD)
J.S.バッハ：「マタイ受難曲」(2000年録音盤)～CMW	[WPCS-16198/200] (3CD)
J.S.バッハ：「音楽の捧げもの」～CMW	[WPCS-21121] (1CD)
J.S.バッハ：「狩りのカンタータ&農民カンタータ」～CMW	[WPCS-21142] (1CD)
J.S.バッハ：「ブランデンブルク協奏曲第1, 2, 4番」「管弦楽組曲第2番」(1981&1983年録音盤)～CMW	[WPCS-21044] (1CD)
J.S.バッハ：「ブランデンブルク協奏曲第3, 5, 6番」「管弦楽組曲第3番」(1981&1983年録音盤)～CMW	[WPCS-21045] (1CD)
J.S.バッハ：「ヴァイオリン協奏曲集」～CMW	[WPCS-21046] (1CD)
J.S.バッハ：「カンタータ第140&147番」～CMW	[WPCS-21092] (1CD)
J.S.バッハ：「カンタータ全集」～CMW、グスタフ・レオンハルト&コンサート	[2564-69943：輸入盤] (60CD)
J.S.バッハ：「マニフィカト」、ヘンデル：「ユトレヒト・テ・デウム」～CMW	[2564-648080：輸入盤] (1CD)
ヘンデル：「水上の音楽」他～CMW	[WPCS-21027] (1CD)
ヘンデル：「オルガン協奏曲Op.4&7」～ヘルベルト・タヘツィ、CMW	[2564-690516：輸入盤] (2CD)
ハイドン：「交響曲第94番「驚愕」&第101番「時計」～RCO	[WPCS-21005] (1CD)
ハイドン：オラトリオ「天地創造」「四季」、他～VSO	[2564-695639：輸入盤] (6CD)
モーツァルト：「交響曲第35番「ハフナー」&第36番「リンツ」～RCO	[WPCS-21009] (1CD)
モーツァルト：「交響曲第38&39番」～RCO	[WPCS-21008] (1CD)
モーツァルト：「交響曲第40&41番」～RCO	[WPCS-21007] (1CD)
モーツァルト：「交響曲第38, 39, 40, 41番」(1991年録音盤)～COE	[WPCS-10819/20] (2CD)
モーツァルト：「ポストホルン・セレナード」～ドレスデン・シュターツカペレ	[WPCS-21107] (1CD)
モーツァルト：「グラン・パルティータ」「ナハトムジーク」～ウィーン・モーツァルト管楽合奏団	[WPCS-21108] (1CD)
モーツァルト：「序曲集」～CMW、RCO、チューリヒ歌劇場管弦楽団	[WPCS-21029] (1CD)
モーツァルト：「レクイエム」(1981年録音盤)～CMW	[WPCS-21093] (1CD)
モーツァルト：「管楽器のための協奏曲集」～CMW	[WPCS-22166] (1CD)
モーツァルト：「ピアノ協奏曲第23&26番」～フリードリヒ・グルダ、RCO	[WPCS-21048] (1CD)
モーツァルト：「コンサート・アリア集」～エディタ・グルペローヴァ、COE	[WPCS-21145] (1CD)
モーツァルト：「オペラ・アリア集」～チェチーリア・バルトリ、他	[WPCS-21094] (1CD)
モーツァルト：「ホルン協奏曲集」～ヘルマン・パウマン、CMW	[WPCS-22036] (1CD)
モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」～RCO	[9029-593479：輸入盤] (3CD)
ベートーヴェン：「序曲集」～COE	[WPCS-21210] (1CD)
ベートーヴェン：「交響曲第3番「英雄」」～COE	[WPCS-21001] (1CD)
ベートーヴェン：「交響曲第5番「運命」」～COE	[WPCS-21002] (1CD)
ベートーヴェン：「交響曲第6番「田園」」～COE	[WPCS-21003] (1CD)
ベートーヴェン：「交響曲第7番」～COE	[WPCS-21101] (1CD)
ベートーヴェン：「三重協奏曲」「合唱幻想曲」～ビエール＝ロラン・エマール、他、COE	[WPCS-22167] (1CD)
ベートーヴェン：「ヴァイオリン協奏曲」～ギドン・クレーメル、COE	[WPCS-21052] (1CD)
ベートーヴェン：「ピアノ協奏曲全集」～ビエール＝ロラン・エマール、COE	[0927-47334：輸入盤] (3CD)
ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」～BPO	[9029-593478：輸入盤] (2CD)
シューベルト：「交響曲第5番」「未完成」「ザ・グレート」～RCO	[WPCS-22128/9] (2CD)
シューベルト、シューマン：「交響曲第4番」～BPO	[WPCS-21202] (1CD)
シューマン：「ピアノ協奏曲」「ヴァイオリン協奏曲」～マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、COE	[WPCS-21222] (1CD)
ブラームス：「交響曲&ピアノ協奏曲全集」～ヘルドルフ・ブッフビンダー、BPO、RCO	[9029-597510：輸入盤] (5CD)
ブラームス：「ヴァイオリン協奏曲」「二重協奏曲」～ギドン・クレーメル、RCO、他	[WPCS-21223] (1CD)
ブルックナー：「交響曲第4番「ロマンティック」」～RCO	[WPCS-22130] (1CD)
ブルックナー：「交響曲第3, 4, 7, 8番」～RCO、VPO、BPO	[2564-656263：輸入盤] (4CD)
ドヴォルザーク：「交響曲第9番「新世界より」」～RCO	[WPCS-22131] (1CD)
ドヴォルザーク：「交響曲第7&8番」～RCO	[WPCS-21201] (1CD)
ドヴォルザーク：「スラヴ舞曲集Op.46&72」～COE	[WPCS-22145] (1CD)
J.シュトラウス：「美しく青きドナウ～シュトラウス管弦楽曲集」～RCO	[WPCS-21030] (1CD)

HARNONCOURT ETERNAL COLLECTION

「アーノンクール後の世界」を生きるために

ニコラウス・アーノンクールが世を去って一年、その不在の大きさは、耳と感性と心ある人々にとって、ますます自明のものとなっているはずだ。その大きさは、喪失感以上に充溢感によって実感される。パトリツィア・コパツィンスカヤがテオドール・クルレンツィスと組んだ、曲のイメージを刷新するチャイコフスキー。そのクルレンツィスが発表した超演劇的で無数の問かけに満ちたモーツァルトのダ・ポンテ・オペラ三部作。あるいはブルックナー、R.シュトラウス、ブラームスと、時代と作曲家に応じて鮮やかにスタイルを切り替えてみせるパーヴォ・ヤルヴィ。そしてチェーチリア・バルトリやジョイス・デイドナートらの企画性も秀逸なヴォーカル・アルバム。さらには前述クルレンツィスやフィリップ・ヘレヴェッヘ、鈴木雅明らがストラヴィンスキーで聴かせる驚くべき新世界…。もちろんグザヴィエ・ロトも忘れてはいけない…。こうした豊かな創造の営みを耳にするたびに、アーノンクールが切り拓いた道の意味深さが実感されるのだ。上述の例は、多かれ少なかれ、その道を歩くことをためらわなかった演奏家だからこそ実現できたと言って過言ではない。聴き手もまた、これらの演奏を享受することで、アーノンクールの恩恵に浴しているのだ。

とはいえ未完に終わったベートーヴェンの新しい交響曲全集など、本人の不在もやはり惜しまれるところだが、ワーナーから巨匠の一周忌に合わせて、「エターナル・コレクション」第2弾として23タイトルもの録音がリイシューされるのは喜ばしい。第1弾同様、今回もリマスタリングはもちろん、歴史的録音の歴史的価値を蘇らせるべく、オリジナル・ジャケットと原盤解説(図版も含む)が可能な限り復元されている。また盤によっては現代の書き手が、現在の地点からアーノンクールを振り返る新稿を書き下ろしている(筆者も末席を務めさせていただいている)。さまざまなフォーマットで再発売されてきたアーノンクールの録音をお持ちの方も、あらためて「決定盤」として手元に置いておくにふさわしい内容だと思う。

タイトルは1960年代から90年代まで多岐にわたる。分類して紹介するならば、まずウィーン・コンツェントゥス・ムジクス(CMW)とのモンテヴェルディ、テレマン、J.S.バッハ、ヘンデルというバロック四巨匠の録音。モンテヴェルディ《聖母マリアのタベの祈り》は新旧録音共に復活だし、J.S.バッハは新録音の陰に隠れがちだった《ブランデンブルク協奏曲》《管弦楽組曲》の記念碑的回録音とその歴史的意義と価値を新たに問う。シュタストニーとの『バッハ：フルート・ソナタ集』や、レオンハルトと組んだ『バッハの息子たちの複協奏曲集』の久々の復活にも注目だ。ヘンデルは1970年代後半からの成熟したCMWによる、ヘンデルの印象を一新させた合奏協奏曲やオラトリオが蘇るし、幅広い年代にわたって録音され続けたテレマン作品も、その価値の再認識を促した名演ぞろい。また、ビーバーやゼレンカ作品集、『マンハイム宮廷の音楽』『マリア・テレジア王朝のウィーン音楽』など、アーノンクールとCMWが文字通り蘇らせた、「彼らの音楽」の数々が復活するのも嬉しい。

古典派以降に目を向ければ今回目立つのはモーツァルト。CMWとロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団を使い分けた、企画性の光る録音が復活する。フリードリヒ・グルダ&チック・コリアとの歴史的共演もある!そしてロマン派ではヨーロッパ室内管弦楽団との陰影豊かなメンデルスゾーン。

振り返れば世界はいよいよ混沌とし、「クラシック音楽」を金科玉条のごとく神聖化する行為はますます先のない袋小路のように感じられる。過去を見直し現代を問い、「クラシック音楽」が本来持っていたさまざまな他ジャンルとの回路を蘇らせ、それぞれの楽曲の背後の社会性まで聴き手に意識させてくれるアーノンクールの演奏の意義はますます大きくなっている。この録音たちは、「アーノンクール後の世界」を生きるための、必携のテキストなのだ。